2008年度 凍土分科会報告

雪氷研究大会（2008・東京）において凍土分科会の総会および講演会をおこなった。参加者は26名であった。

日 時：平成20年9月25日（木）13:00-15:00

場 所：東京大学本郷キャンパス 工学2号館211号講義室

分科会総会（13:00-13:30）

赤川会長の退任に伴い、溝口会員が新会長に選出された。また、幹事に渡辺会員が、監事に伊豆田会員がそれぞれ指名され、承認された。続いて、H19年度の監査報告が示された。

その他報告事項として「永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会」の後援や日本永久凍土研究会との関連、MLやインターネットを介したスモールセミナーの開催など、活動報告と予定が新旧会長より示された。また、帯広畜産大の武田氏より、第9回永久凍土国際会議について、会議およびエクスカージョンの様子が報告された。

講演会「永久凍土の温度計測 -その目的と要請される測温精度-」（13:30-15:00）

昨年度の総会で審議された凍土分科会の歴史的変遷、工学的研究や地球環境系の研究の混在や凍土研究を取り巻く社会的環境の変化を受けた分科会研究活動の一環として、赤川会長（北大工学研究科）より講演会の趣旨説明があった。引き続き、東京大学気候システム研究センターの末吉哲雄氏から「地温観測からの気候復元：永久凍土は気候変動のindicatorになるか」と題して、また、北大地球環境科学研究院の石川守氏から「永久凍土温度測定の実状と有るべき姿」と題して講演が行われた。講演後には、講演内容に留まらず、各国のポアホールの実状と問題点、現場で温度測定に使用する機器の選択・キャリブレーション・埋設法などについて活発に議論がなされた。その後、Institute of Geography and Regional Science, University of Graz, AustriaのAndreas Kellerer-Pirklbuer氏より、火山の永久凍土について特別講演が行われた。